

議長記者会見（第56回）会見録

日時：令和8年9月30日（水）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室

会見を行う不破議長（右）と横山副議長（左）



それでは、議長として、定例会を終えての所感を述べさせていただきます。

最初に、全国各地で相次いで発生しています災害についてであります。

7月に、最大震度7を観測しました熊本地震では、多くの尊い命が失われるとともに、各地に深刻な被害がもたらされました。被害に遭われた皆様方に心からお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになった方々に謹んで哀悼の意を表したいと思います。

県議会としましては、さきの議会運営委員会で了解をいただき、県議会の議員一同から災害見舞金を募りまして、去る25日に東京事務所長を通じて、見舞金を贈呈させていただきました。被災された皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻されることを心からお祈りいたします。

また、その後も、8月に発生した千葉豪雨や、先般の台風25号による災害など、全国各

地で大規模な豪雨や自然災害が相次いで発生しております。

本県においても、8月27日からの大雨により、県内では初めてとなるレベル5の大雨特別警報が発表されるなど、記録的な豪雨に見舞われました。各地で河川の氾濫や土砂災害、浸水被害が発生し、住家や公共施設、道路などに大きな被害が生じております。県民生活に深刻な影響が及びました。

今月初めには、あかま防災担当大臣、金子国土交通大臣、鈴木農林水産大臣の皆様が本県に訪れて、被災状況を視察されました。私も現地調査に3日間同行し、被害の実情をお伝えするとともに、被災地の早期復旧に向けた国の支援について要望したところであります。

被害に遭われた県民の皆様方に対しまして、県議会を代表し、心からお見舞いを申し上げます。県議会といたしましても、一日も早い復旧に向けて全力で取り組んでまいりたいと考えております。

それでは、次に、今定例会を振り返ってであります。

今ほども申し上げましたが、本県をはじめ全国各地で自然災害が相次ぐ中、今定例会では、県内被災地の復旧や被災者支援の取組に加え、近年発生した大規模地震や豪雨災害の教訓を踏まえた防災・減災対策の強化、避難体制や地域防災力の向上、災害に強い社会基盤の整備などについて活発な議論が交わされました。

また、8月末の大雨災害への緊急対応として、総額190億円余の追加補正予算が提出され、本日可決したところです。被災地の復旧・復興はもとより、県民の安全・安心の確保と生活再建に向けた取組を着実に進めていくことが重要だと思っております。そのために必要な施策が速やかに実施されることを期待しております。

県議会といたしましても、執行部とともに、被災者支援や生活再建、さらには災害に強い地域づくりに全力で取り組んでまいります。

山野知事は就任後約6か月が経過し、今定例会は2回目の定例会となりました。この2定例会を通じて、多くの議員が本会議や予算委員会において質問に立ち、山野知事の県政運営や施策の方向性についての議論を重ねてまいりました。

今後の県政運営に当たりましては、こうした議会での議論や提言を十分に踏まえ、知事が掲げる「現場主義」の考え方が具体の施策として県民の皆様にも分かりやすく示されていくことを期待しております。

また、今定例会中に可決された意見書についてであります。意見書等調整会議で調整された結果、各会派から提案のあった10件の意見書のうち、「防災庁創設を契機とした防災体制の抜本的強化を求める意見書」など7件が可決されました。

可決された意見書7件については、議会として国へ要望するものでありまして、国会及び関係行政庁へ提出することとしております。

次に、ふれあい親子県議会教室の結果報告をしたいと思います。

議会の広報広聴活動の一環として平成 26 年度から開催しており、毎回大変好評をいただいております。今年は 8 月 6 日、7 日の 2 日間にわたり開催し、計 66 組の親子に参加いただきました。

参加された皆さんからは、大変楽しく有意義な時間であったとの声をいただいております、県議会をより身近に感じていただく貴重な機会になったものと考えております。

また、特に印象に残ったのは、議員との意見交換の場において、能登地域以外から参加した子どもたちが「能登の復旧・復興を進めるためにはどうしたらよいか」など、能登に思いを寄せる、真剣に考えてくれる、そういう声をたくさんいただいたということで、いたく心を打たれるところがありました。そういった子どもたちの思いにも頼もしく感じたところでもあります。

続いて、本県議会議員の定数及び選挙区についてであります。

来春の統一地方選挙における県議会議員の定数及び選挙区につきましては、本年 2 月定例会において条例改正を行ったところですが、昨日、令和 7 年国勢調査の確定値が公表されました。本日の議会運営委員会で確認した結果、条例に定める定数及び選挙区で次の選挙に臨むことといたしました。

県議会といたしましては、県民の声を的確に県政へ反映するとともに、県民の信頼と期待に応える議会運営に努めてまいります。

次に、北陸新幹線敦賀・新大阪間の整備についてであります。

7 月に、与党の整備委員会において、敦賀・新大阪間のルート案として、小浜・京都ルートの桂川案が取りまとめられました。

北陸新幹線は、沿線地域の経済発展に大きく寄与するだけでなく、災害に強い国土づくりを支える国家プロジェクトでもありますので、その効果は大阪まで全線でつながってこそ発揮されるものと思っております。敦賀以西の整備については、京都府などが示している課題の解決は不可欠であります。

今後とも沿線府県が連携し、地元の理解促進と諸課題の解決に努めながら、一日も早い全線整備の実現に向けて、政府・与党に強く働きかけをしていきたいと考えております。

最後に、日本スポーツマスターズ 2026 の石川大会に際して、高円宮妃殿下にお成りいただいたということでもあります。

本大会は、高円宮妃殿下のご臨席を賜って、9 月 18 日からの 5 日間を中心会期として、本県で開催されました。全国から多くの選手や関係者の皆様をお迎えし、シニア世代の生きがいづくりや健康増進、さらにはスポーツ振興につながる大変意義深い大会になったと思っております。

私自身も、県議会を代表して妃殿下に随従する機会を賜りました。本当に光栄の至りであります。参加者や県民の皆様にお声をかけられるお姿を間近で拝見をして、深い感銘を受けたところであります。また、滞在中には、能登半島地震からの復旧・復興の状況に関しても関心をお寄せいただきまして、県民や関係者の皆様に温かいお言葉もおかけいただきまし

た。そのお心遣いは、多くの県民にとって大きな励みとなったものと感じております。

改めまして、高円宮妃殿下の来県に深く感謝申し上げたいと思っておりますし、大会の開催にご尽力いただいたすべての関係者の皆様に心から敬意を表したいと思っております。

私からは、以上であります。

＜質疑応答＞

記者

先ほど、知事の政治姿勢について定例会で多くの質問があったとお話しされましたが、本来であれば個別事業をより深める議論を行うべきところ、その時間が政治姿勢に関する質問に割かれていることについて、率直にどのように受け止めていますか。

不破議長

率直に申し上げれば、この2回の定例会で、ほとんどの議員が既に質問の機会を得たわけですが、知事の政治姿勢を問う質問は、これまでと比べてやや多かったように感じています。

それだけ、知事がどのような考えを持ち、どの方向を目指しているのかが、まだ十分に見えていないと受け止めている議員が多いということではないかと思います。

一方で、知事が就任した時点では当初予算は既に成立しており、各種計画や成長戦略についても従来から進められているものが大半であったため、新たな色を打ち出しにくい事情もあったのではないかと思います。

ただ、施策に込める思いや方向性については語ることはできるはずですので、もう少し語ってもいいのではないかと感じましたし、こうした質問が相次いでいることは、知事の考えが十分に伝わっていないことの表れでもあるのではないかと感じています。

記者

だからこそ、先ほど「現場主義」を県民にも分かりやすく示してほしいと述べられたのですね。

不破議長

前回の議長記者会見でも申し上げましたが、来年度当初予算の段階になれば、知事のカラーや考え方がより明確に表れてくるのではないかと思います。

むしろ、その際にはしっかりと示されるべきだと考えており、当初予算編成が一つの大きな機会になるのではないかと考えています。

記者

記者会見などでも、「山野カラー」をもっと打ち出すべきではないかという質問に対し、知事は「自分の県政ではない」といった趣旨の答弁をされることがあります。今後も同様の状況が続けば、12月定例会、さらには当初議会においても、同じような質問が繰り返される可能性があると思いますが、どのようにお考えでしょうか。

不破議長

来年の当初議会になれば、新年度予算の内容を通じて知事の考え方や方向性が見えてくると思いますので、状況は変わってくるのではないかと考えています。

ただ、次の議会では、もうそのような質問はしなくなるかもしれませんね。

記者

来春には統一地方選挙も控えています。議員としては、自らの質問によって事業や施策が改善されたという成果を示したいと考えていると思いますが、政治姿勢に関する質問に時間を割くことで、かえって成果が見えにくくなり、議員にとっても不利益ではないでしょうか。

不破議長

質問項目の一つとして政治姿勢を問うこと自体は問題ないと思います。

ただ、それだけに終始してしまうと、せっかくの質問の機会を得ながらも、具体的な成果につながる答弁が見えにくくなる面はあるかもしれません。

一方で、今回の定例会では、多くの議員が知事の政治姿勢だけでなく、他の政策課題についても質問し、執行部から前向きな答弁を引き出していたように感じています。

記者

福岡県議会の問題による影響は、石川県議会にも生じていますか。

不破議長

地域を回ると、「石川県議会は大丈夫なのか」といった声を受けることがあります。また、「同じようなことをしているのではないか」といった指摘を受けることもあります。

報道が多くなされた時期には、議会事務局にもたくさん問い合わせが寄せられましたし、私の事務所にも電話がありました。中には、一方的に悪人であるかのように決めつける内容のものもあり、電話に出た者も相当ショックを受けていました。

記者

福岡県議会において今後、自浄作用が十分に働けば全国的な影響は収まっていくのかもしれませんが、全国議長会として、福岡県議会に対して何らかの要請を行う必要があるのでしょうか。

不破議長

前回の全国議長会総会では、福岡県議会の蔵内前会長が冒頭の挨拶で一連の問題について触れ、お詫びの言葉を述べていました。

その後、数県の議長から苦言や意見が述べられましたが、冒頭でお詫びがあったこともあり、議論が大きく紛糾することはありませんでした。

苦言や意見を述べた議長からは、「お詫びの言葉はあったものの、この問題については一言申し上げておきたい」といった趣旨の意見が示されていたと受け止めています。

記者

福岡県議会の問題を受けて、例えば、県庁職員との関わり方などで、静岡県議会では本会議前に職員が並んで議員に挨拶する慣行を見直すといった動きもあったようですが、石川県議会として何らかの見直しを行う予定はありますか。

不破議長

現時点で、議会として新たな対応を検討しているものではありません。

私としては、一連の報道に驚いている状況であり、石川県議会の現状とは大きくかけ離れているため、直ちに見直しが必要と考える事案は特に思い当たりません。

記者

定例会閉会後の執行部による挨拶回りについては、毎定例会から当初議会のみへと見直しましたね。

不破議長

その点については見直しを行いました。

国においても、高市政権が補正予算に依存するのではなく、当初予算を重視して予算編成を行う方向性が示されており、そうした流れにも合致しているものと考えています。

記者

先日の議会運営委員会では、全国都道府県議会議長会の議員研究交流大会において、ワンヘルスをテーマとしたパネルディスカッションが予定されていることから、参加や派遣を見送るべきではないかとの意見もありましたが、石川県議会として何らかの対応を行う考えはありますか。

不破議長

福岡県議会を巡る一連の問題の影響もあり、委員の皆さんが地域で様々な意見を受けている中で、「この時期にこのテーマなのか」といった声が出ることについては、理解できる部分があると思っています。

事務局を通じて全国都道府県議会議長会事務局に確認したところ、ワンヘルスは国の「骨太の方針」にも位置付けられている取組であるとの説明を受けました。そうした説明を受けると、そのテーマ自体には意義があるのだらうと思いますが、一方で、昨今の報道の影響により、ワンヘルスという言葉自体が本来の趣旨とは異なる形で受け止められている面もあるように感じています。

そのため、参加を見合わせる議員もいれば、学ぶ意義があるとして参加する議員もいると思いますので、最終的にはそれぞれの議員の判断によるものであり、県議会として参加を制

限したり、自粛を求めたりする考えはありません。

記者

議員個人の関心や問題意識に基づく質問であることは承知していますが、大雨災害の発生直後であり、また経済情勢も厳しい中で、今回の一般質問では犬や猫に関する質問が比較的多かった印象があります。議長として何か所感があればお聞かせください。

不破議長

今回は、能登地域の野良犬・野良猫の問題や、高齢者のペットの取り残し問題が取り上げられていたと思います。これまでも動物愛護の観点から殺処分をなくすといったテーマはありましたが、そうした課題については県内でも一定程度取組が進んできたものと認識しています。

一見すると同じ犬や猫に関する質問のように見えますが、それぞれ少し違った問題であると受け止めています。高齢者のペットの取り残し問題については、ペットの問題であると同時に、高齢化や単身高齢者の増加といった社会問題を表している面もあります。

また、能登地域における野生化した動物の問題についても、地震があったからこそ顕在化した課題であり、本県にとって重要な視点であると思っています。

そうした意味では、これまで取り上げられてきた犬や猫に関する問題とは少し角度の異なる議論だったと受け止めています。犬や猫に関する質問が多いという印象を持たれたのかもしれませんが、毎定例会このような質問が集中しているわけではなく、今回はたまたま重なったものと考えていただければと思います。

以 上